

其他諸國ノ輸入額ヲ合計スルトキハ左ノ數額ニ達セリ

六三五、〇八七、〇〇〇 一、一七一、七七二、〇〇〇

右數字ハ露國ニ於ケル諸國貿易ノ趨勢ヲ説明シテ餘アリ、獨逸ノ露國貿易カ千九百五年以來營ニ二倍以上ニ達シタルノミナラス、其輸入額カ佛國ノ對露國輸入額ニ比シテ約十倍ノ多額ヲ占メ、一國ヲ以テ全露國ノ輸入總額ニ對スル約半額ヲ代表セルカ如キ盛況ヲ呈スルカ如キ實ニ驚クヘキ有様ナリト云フヘシ

人口ノ數一億二千萬ヲ有スル露國ノ如キ庞大ナル市場ニ於テ獨逸ノ占ムル地位ハ今日殆ント獨占的ナリ、而モ其市場タルヤ向後二倍三倍若クハ四倍ノ吸收力ヲ有スルニ至ルヘキコトハ疑ヲ容レサルトコロナリ、何トナレハ現今ノ輸入額ヲ取テ之レヲ人口ノ數ニ對照スルトキハ一人ノ平均年輸入額ハ未タ十留ニタモ達セサルヲ以テナリ、此ノ如ク將來ニ希望多キ市場ニ於テ獨逸ハ千九百十三年中ニ已ニ一人ノ平均購買力タル十留ノ半額即チ五留ノ貨物ヲ供給シ、英國ハ一留半、而シテ佛國ハ辛ウシテ半留ノ貨物ヲ供給シ得タルニ過キサリシナリ

以上ノ成績ニ就テ之レヲ見ルニ露國市場ニ於ケル佛國ノ供給狀態ハ猶ホ頗ル幼稚

ノ域ヲ脱セス、向後一段ノ奮勵ヲ要シ大ニ從來ノ方策ヲ改善スルコトヲ要スルハ更メテ論スルヲ要セスト雖モ戰後獨逸ノ地位ヲ奪ツテ露國ノ需要ニ應シ之レニ代ルノ野心ハ果シテ吾實力ノ許ササルトコロナリヤ否ヤ

依テ吾人ノ此際第一着ニ爲ササル可ラサル事業トシテハ、先ツ從來吾人カ獨逸ヨリ受ケタル獨逸生產品ヲ吾國ノ市場ヨリ驅逐シ以テ佛國市場ノ獨立ヲ計リ、次テ吾製造品ノ多額ヲ露國ニ供給スルノ方法ヲ講スルノ方法ヲ取ラサルヘカラス
誠テ之レヲ見ルニ今日露國自身カ總額五億三千二百萬留ニ上レル獨逸ノ貨物ヲ斷乎トシテ排斥シ之レカ輸入ヲ禁制セントスルコトハ恐ラクハ至難ノ業ニシテ其實行ニハ多少躊躇スル所有ルヘシ、何トナレハ露國ハ之レニ對スル交換貿易トシテ獨逸ニ向テ現ニ年額三億七千五百萬留ニ達セル生產品ヲ輸出シ居レハナリ、加之獨逸ハ露國ノ必要原料品ニ關スル一大供給國ニシテ千九百十二年ニハ二億三千四百萬ノ各種機械及ヒ器具類、二千萬留ノ農作器具、四千七百萬留ニ對スル科學用器具、電氣機械、樂器等ヲ供給シ居レリ、而シテ是等ノ生產品ハ佛國自身モ亦之レヲ獨逸ヨリノ供給ニ仰キツツアルノ狀態ナルヲ以テ佛國カ露國ノ市場ヲ征服セント欲セハ、先ツ

自國市場ノ恢復ヲ圖ルノ急アリト云フヘシ

右ノ説明ハ經濟界ニ於テ齋ラサムトスル大計畫ニ矛盾スルノ觀アリト雖モ、吾人ノ
舊キニ主張シタルカ如ク、聯合諸國間ニ於ケル經濟的協商ハヨク獨逸工業品ノ輸入
ヲ禁制シ又ハ之レニ向テ重稅ヲ課スルコトヲ得ヘク、而シテ之レカ結果トシテ露國
ニ對シテハ聯合國中ノ一國カ獨逸生產品ニ代リ低價ヲ以テ所要ノ貨物ヲ供給スル
ノ方法ナキニアラサルナリ

然レトモ吾人ハ又是レト同時ニ工業國トシテハ猶ホ未タ幼稚ノ域ヲ脱セサル露國
(總人口ニ對スル七割七分ハ農民ニシテ工業家又ハ職工ノ數ハ僅カニ其一割ニ過キ
サル)カ向後一層工業國タラントスルノ希望ヲ有スルニ至ランコトヲ望マサルヲ得
ス、素ヨリ露國ニ於テモ佛國ニ於ケルト同様ニ、工業上獨逸勢力ノ羈絆ヲ免レントス
ルノ希望ヲ有スルコトハ想像ニ餘リアレトモ、單ニ友邦ノ故ヲ以テ徒ニ吾國ノ侵入
ヲ欲スルモノト云フ能ハス要ハ露國ヲシテ活動セシムヘキ一大優勢ナル工業ヲ創
設セシムルヲ以テ正當ナル希望ト云ハサル可ラサルナリ、惟フニ露國將來ノ國力及
ヒ國富ノ消長ハ一一此大膽ナル希望ノ實行如何ニ繫ルモノトス、生活ノ幸福ト獨立
ノ多キヲ得ンカ爲メノ向上心ハ彼等ヲシテ工業國民タラシムルニ至ラシムヘク、露

國民ハ其領土内ノ地上及ヒ地下ニ存スル無限ノ富カ命スル進化ノ大法則ニ服從シ
テ必スヤ特ニ天惠ヲ得タル此一大富源ヲ開拓シ露國ノ工業ヲシテ舊歐羅巴諸國ヲ
脅スニ至ラシムルハ數世紀ヲ出テサラム聯合國間カ經濟的協力ヲ爲スニ際シ露國
ノ取ルヘキ態度ヲ公平ノ見地ヨリ考察スルニ露國ハ國際的經濟政策ノ強請ニ届從
シテ其國家經濟策ヲ犠牲ニ供スルカ如キコトナカル可シ勿論露國ハ獨逸ノ或ル種
工業ヲ驅逐シ、之レニ代フルニ佛、英、白、伊等ノ諸國工業品ニシテ獨逸產ニ類似セルモ
ノノ輸入ニ便宜ヲ與フルノ政策ヲ取ルニ至ルヘキコト蓋シ疑ヲ容レスト雖モ、左リ
ナカラ從來既ニ過度ノ保護貿易主義ヲ採用シタル露國カ戰後更ニ一層ノ保護主義
ヲ取ルニ至ルヘシトハ想像スヘカラス、結局露國ノ聯合諸國ニ求ムルモノハ製造品
ニアラスシテ、寧ロ資本ノ供給ニアルヘシ、即チ彼レハ資本ヲ得テ其ノ地上地下ニ有
スル無限ノ富ヲ工業的ニ活用スルコトニ努力スヘキナリ

故ニ佛國ハ將來ト雖モ露國內ニ於テ無限ノ販路ヲ見出シ得ルモノト期待スヘカラ
ス殊ニ目下ノ工業狀態ニ於テハ假令露國ヨリ註文アルモノハ製造品
コト能ハサルナリ

更ニ交換貿易ノ點ニ就テ云ハニ、佛國ハ露國ノ得意國トシテハ到底獨逸ノ敵ニア

ラス、現ニ千九百十二年ノ露國統計表ノ示ストコロニ依レハ獨逸ハ露國ヨリ年額三億七千五百萬留ノ生產品ヲ購入シタルニ當時佛國ノ購買額ハ年額僅カニ七千六百万留ヲ出テサリシナリ

凡ソ通商協約ハ當事國双方ノ利害カ相平均セルコトヲ以テ便益トシ其契約ノ條件ヲ規定スル場合ニ際シテハ同時ニ契約國双方ノ利害ヲ考慮スヘキ必要アルカ故ニ、上來説明シタル露佛間ノ貿易關係ニ照ラサハ露國ハ佛國トノ通商協約ノ締結ニ頗ル冷淡ナルヘシト云フコトヲ得ヘシ、何トナレハ露國ハ吾市場ニ於ケル輸入貿易狀態ニ改善ヲ求ムル程ノ販路ヲ有セサレハナリ

佛國稅關廳ノ發表ニ係レル統計ノ示ス處ニ依レハ、露國カ千九百十三年中ニ佛國ニ供給シタル貨物總額ハ四億五千八百法ニ達シタリト云フ、然ルニ此金額中三億二千四百萬法ハ亞麻、絹絲及ヒ真綿、鑄物、麻油粕、皮等ノ如キ原料品ノ代價ニシテ此分ニ對シテハ輸入稅ヲ負擔セス、又露國ノ工業狀態ハ猶ホ未タ製造品ヲ佛國ニ供給スル迄ノ域ニ達セス、千九百十三年中佛國ニ輸入シタル製造品ノ金額ハ僅カニ三千二百萬法ニ過キサリシナリ、要スルニ露國モ亦自ラ顧ミテ輸出國ナリトノ自負心ヲ有セサルナリ、而シテ食料品殊ニ麥ニ關シテハ千九百十三年中ニ佛國ニ供給シタル金額ハ

八千百萬法ヲ算シタリ、元來此問題ニ就テハ兩國間ニ於ケル協約ノ結果一「キンタル」ニ對シ七法ノ輸入稅ヲ課稅シタリシモ、露國ハ其後強テ之レカ減稅ノ交渉ヲ爲ズノ必要ヲ認メサルニ至レリ、何トナレハ露國ハ佛國カ如何ナル事アリテモ所要ノ麥ヲ外國ニ仰カサル可ラス、而シテ之レカ供給國ハ米國ニアラサレハ必スヤ露國タルコトヲ熟知シ且ツ佛國カ米國ノミニ麥ノ供給ヲ仰クトキハ米國ノ供給者ニ麥價ノ昂低ヲ支配シ得ヘキ獨專權ヲ與フルノ結果ヲ生スルノ恐レアルコトヲ理解シ居レハナリ、要スルニ露國ノ主眼トスルトコロハ佛國ヘノ輸入ニ際シ麥ノ輸入稅ニ等差ヲ設ケサルニアルノミ

(註)「佛國稅關廳ノ發表ニ係レル統計表ノ示シタル露國生產品ノ千九百十三年中ニ於ケル佛國輸入額四億五千八百萬法ノ數字ト露國稅關廳カ發表シタル統計ノ示セル千九百十二年中佛國ヘノ輸入額タル七千六百萬留トノ間ニ數字上大ナル相違ノ存スルコトハ世人ノ注意ヲ惹起シ得ヘキ問題タラスンハアラス露貨一留ヲ佛貨二法六十六參ヲ以テ換算スルトキハ露國カ千九百十二年中ニ佛國ニ輸出シタル右七千六百萬留ハ佛貨二億二百萬法ニ過キス、然ルニ吾千九百十三年ノ貿易統計表ノ示ス所ニ依レハ右金額ハ四億五千八百萬法ナルモノノ如シ、然リト雖

モ各國ノ統計表ヲ比較對照スルトキハ屢々此ノ如キ差異ヲ見ルコトアルヲ免レ
サルモノト覺悟セサル可ラス、依テ之レカ真偽ヲ論評スルコトハ或ハ不可ナラサ
ルヘキモ、之レカ爲メ官廳ノ一タル税關ノ統計ニ向テ全然信ヲ措サルニ至テハ決
シテ稱揚スヘキ事ニアラサルナリ、只斯ル疑問ノ發生シタル場合ハ一般ノ原則ト
正確ナルモノト認ムルニアルナリ、何トナレハ各國共ニ輸入貨物ニ就テハ原產地
ノ調査及ヒ輸入税ノ徵收等ノ必要上、輸出ノ場合ニ比シテ其輸入額ニ關スル數字ヲ
シ、是レニ反シ輸出ノ場合ハ概シテ寛大ニシテ且ツ其目的地ニ就テモ亦概シテ嚴
重ナル検査ヲ爲ササレハナリ、以上ノ理由ニ基キ露國ニ於ケル佛國商品ノ輸入額
ヲ知ラント欲セハ、之レニ關スル佛國ノ統計ヨリモ寧ロ多ク露國税關ノ發表シタ
ル數字ニ信賴シテ其輸入額ヲ定ムルヲ可トシ、是レト反對ノ場合ニ於ケル佛國稅
關ノ統計ニ依テ露國商品ノ佛國輸入額ヲ定ムヘキナリ

例外トシテ輸出ノ統計ニ依ラサル場合ハ或ル一國ヨリ諸國ニ向テ商品
ヲ輸送スル場合ニ限レリ、但シ其輸送貨物ノ指定地分配額ニ關スル數字ハ素ヨリ
不正確タルヲ免レサルナリ

以上ノ理由ハ千九百五年協約締結ノ當時已ニ存在シタリ、而シテ此理由カ何故ニ露
佛間最後ノ協約ニ於テ當時兩國共ニ眞面目ニ何等ノ讓歩ヲ爲ササリシカヲ説明シ
テ餘リアリト云フヘキナリ

然レトモ戰後ニ至ラハ此狀態ニ一變ヲ來ササル可ラス、否ナ此狀態ハ兩國相互間ノ
讓歩ノ結果ニ依ラスシテ必スヤ露國カ獨逸ノ或ル種類ノ生産品ヲ驅逐シテ自ラ之
レニ代ラントスルノ事實ニ依テ一變スヘシ惟フニ聯合諸國ハ露國ノ此ノ驅逐策ニ
利益スルコト多カル可ク而シテ露國モ亦佛國カ一般税率ヲ課シテ以テ獨逸生産品
ノ驅逐ヲ利用シ得ヘキナリ

千九百五年ノ露佛協約カ現實ニ佛國ノ輸出貿易ニ利害ノ關係アル生産品ニ對シ露
國協定税率ヲ適用スルコトト爲シタルハ吾商議員ノ成功ト認ムルヲ得ヘシ
縱令右協定税率ノ適用カ吾輸出貿易ニ影響スルコト頗ル小ナリトスルモ、而モ減稅
ト稱セラレタル右露國ノ税率ハ吾生産品ノ販賣ヲ増加セントスルニ當リ猶ホ頗ル
重稅ナリト云ハサル可ラス、今其重ナルモノヲ示サンニ現ニ吾「シャンパン」酒ノ如キ
ハ一壇ニヅキ四法以上ノ輸入税ヲ負擔シ、火酒ハ百キログランム毎ニ百六十九法即
チ一壇ニツキ約三法、靴類ノ如キハ一キロ毎ニ十一法、藥劑ハ一キロニツキ四法、香料

類ハ一「キロ」ニ對シ六法、毛織物ハ一「キロ」ニツキ二十九法、婦人用帽子ハ一「キロ」ニ對シ百五法ノ輸入稅ヲ負擔シ居レリ

故ニ聯合國間ニ於ケル貿易上ノ相互増進ヲ促サントセハ露國ハ依然トシテ保護貿易主義ヲ維持シツツ而モ最モ有効ナル方法ヲ以テ佛國生産品ノ輸入ニ便宜ヲ與へサル可ラス其所謂有効ナル方法トハ千九百五年ノ露佛協約中ニ定メラレタル佛國商品ニ對シ協定稅率ヲ充分ニ輕減スルニアリ、是レ吾人ノ要求セントスル問題タルナリ

其他又佛國ノ商人カ露國トノ貿易ニ關シ從來久シク不平ナリシハ利益ノ防衛上遭遇シタル幾多ノ困難及ヒ其係爭事件ニ對スル裁判々決ノ遲延等ニ關シ露國稅關廳トノ衝突相踵イテ起レルコトニアリ

露佛兩國政府ハ現戰爭前已ニ兩國官吏ヲ以テ組織シタル委員會ヲシテ是等諸問題ノ調査ヲ爲サシメタリ、即チ之カ結果トシテ千九百一年及ヒ千九百三年ノ露國稅關規則ニ加フヘキ修正ノ件ヲ露國ノ議會ニ提出スルノ目的ヲ以テ起草セラレタリシカ此修正ノ點ハ將來締結セラルヘキ露佛協約中ニ記載セラルルコトト爲ルヘシ、又佛國ニ於テハ之レト同時ニ露國ニ於ケル佛國商人ノ旅客ニ便宜ヲ與フヘキ方法及

ヒ各宗信徒ノ旅客ニ對スル待遇ノ平等ヲ得ンコトヲ希望セリ、其他又吾商人中ニハ其商品ヲ露國ニ輸入スルニ當リ品名表示ヲ爲シタル貨物又ハ鉛ヲ以テ密閉シタル貨物ヲ稅關倉庫ニ於テ荷解ヲ命セラルルカ爲メニ無用ノ費用ヲ要シ且ツ之レカ爲メニ商品ニ毀損ヲ生スルコト有リトテ不平ヲ訴フルモノアリ

之レカ救濟方法トシテ露國政府カ其稅關ノ出張所ヲ佛國ニ設立スルコトニ同意セハ佛國輸出商ノ使用人ハ其面前ニ於テ自ラ荷解等ノ作業ヲ爲シ出張官吏之レヲ監督スルニ於テハ右ニ陳ヘタル苦情ヲ生スルコトナカル可シ、露國ノ稅關當局者ハ原則トシテ此提案ニ同意シタルカ故ニ、他日協約中ニ規定セラルルコトト爲ルヘク
以上ノ説明ハ左ノ希望ニ歸着ス

希望第二十
千九百五年九月廿九日(露曆十六日)ノ協約ニ指定シタル佛國貿易ニ
利害ノ關係多キ商品ニ對シ充分ニ減稅ヲ施サンカ爲メ之レヲ露國關稅率ニ列
舉スヘキ目的ヲ以テ露佛間ノ通商協約ヲ締結スルコト、又該協約中ニハ右ノ外
尙ホ關稅仕拂濟貨物ノ稅關倉庫外搬出訴訟ノ規定、佛國ノ巡回商人、佛國ニ露國
稅關ノ出張所設立等ニ關シ新タニ稅關規則ヲ定ムルコトヲ約シ且ツ該協約ヲ
以テ露佛兩國ハ重稅ヲ課シテ各其領土内ヨリ驅逐シタル獨逸生産品ニ代ハル

へキ兩國ノ生産品ニ對シ免稅又ハ減稅ヲ爲スヘキ旨ヲ定ムルコト
吾人ノ調査ノ結果トシテ佛國經濟上ノ制度ニ加フヘキ改正ニ對スル佛國委員會ノ
理由及ヒ希望ハ前述ノ諸點ニ止レリ

本研究中ニハ論スヘキ性質ノモノニシテ而モ茲ニ論究セラレサル點蓋シ少カラサ
ル可ク、又論題ノ範圍カ目下ノ時局ニ照ラシテ經濟的發展ノ大問題ニ對シ甚タ狹小
ニ失セリトノ批難ヲ爲スモノモ亦之レアルヘシ

報告委員長ハ佛國商業ノ再興ニ關スル諸問題ノ第一計畫トシテ專門教育上ノ改革
ヲ舉クルハ蓋シ必要ノコトナラム然レトモ報告委員長ハ此改革問題ハ今日迄已ニ
充分ニ輿論ノ公評ニ訴ヘタルモノト思惟シ、且ツ上院ニ於テハ千九百十六年七月
アスチエー氏ノ提案ニ係レル商工業ノ専門教育ノ組織ヲ目的トシタル法律案ヲ可
決シタルヲ以テ、議會モ亦已ニ殆ント本問題ヲ解決シ終リタルモノト認ムルヲ以テ
茲ニハ之レヲ第一計畫案トシテ提出セサリシナリ

報告委員長ハ其他各方面ヨリ蒐集シタル數多ノ希望事項中ニ吾海運業ノ擴張、陸上
又ハ河川ノ輸送方法ノ組織、港灣ノ改築、新航路ノ創設等ヲ目的トシタル幾多新舊ノ
提案ニツキ之レヲ議題トシテ採用スルコトヲ爲ササリキ其然ル所以ノモノハ是等

問題ノ解決ハ佛國ノ經濟發展ニ對シ頗ル緊要ナルニモ拘ハラス、從來既ニ普ク輿論
ニ訴ヘ且ツ議會ノ問題ト爲リ、又各種ノ商業團體、内外ニ於ケル吾商業會議所及ヒ上
下兩院ノ各部報告委員會ニ依テ已ニ充分ニ其必要ナルコトヲ認メラレ居ルカ故ニ、
今日改メテ之レカ辯護ヲ爲スノ要ナキモノト認メタルカ故ナリ

報告委員長カ在外佛國領事ノ職責ニ關シ及ヒ商務官ノ任命改正ノ件ニ就テ茲ニ再
ヒ之レカ調査ヲ爲スノ要ナキモノト認メタル所以ノモノハ是レ亦從來世上ノ問題
ト爲リテ既ニ業ニ天下公知ノ事實タルカ故ナリ、蓋シ本問題ニ關スル政府ノ注意及
ヒ努力ノ有無如何ニ對シテハ世上區々論究ヲ竭シ且ツ商業界ヨリモ激烈ナル批難
ノ聲起リ、佛國貿易不振ノ原因ヲ舉ケテ一ニ之レヲ領事及ヒ商務官任命ノ當ヲ得サ
ルニ歸スルモノ有リト雖モ、是レ畢竟吾領事ノ事業外國貿易局ノ實狀、商務省及ヒ外
務省ノ官制組織ヲ知ラサルノ結果ナリト云ハサルヲ得サルナリ、然レトモ又官廳ノ
仕事ハ總テ豫算ニ掣肘セラルカ故ニ、政府ハ現今ノ情勢ニ於テ對外貿易ノ發展上
到底吾商工業者ノ創意、發案及ヒ其努力ヲ度外視シテ獨リ壇ニ行動スルヲ得サルナ
リ以上ノ精神ニ基キ近キ將來ニ吾外國貿易局ノ官制ニ改正ヲ加フルコト有ルヘシ、
現ニ議會ハ既ニ之レニ必要ナル支出金額ヲ可決シタリ、政府ノ民間援助ニ關スル方

法ノ改善如何ハ畢竟豫算ノ問題ニ外ナラサルナリ

諸經濟問題ノ研究ヲ完備セントセハ、報告委員長ハ猶ホ進テ其研究ヲ工業權ノ問題及ヒダジビング投賣ニ對スル防禦方法ニ迄及ホササル可ラス、此投賣問題ハ一時的性質ノモノニシテ未タ基礎ノ確定シタルモノニアラサルノ感アレトモ、兎ニ角研究ヲ要スヘキモノナリ、又諸問題ニ先チ第一計畫トシテ着手セサル可ラサル重要ナル問題ハ佛國ニ於ケル出產數ノ增進ヲ促スヘキ法律ノ制定ナラスンハアラサルナリ、何トナレハ是レ實ニ一般ニ認メタル佛國々勢ノ困難ト其劣勢トノ出發點ニシテ佛國ニシテ過多ノ人口ヲ有センカ、吾對外貿易ハ確ニ顯著ナル發展ヲ來スヘキヤ疑ヲ容レサル處ナリ然レトモ商工、農共和四委員會ノ最先ニ爲スヘキ事業トシテハ平和條約ニ記載セラルヘキ諸經濟問題ノ研究ニ專心スルニアリ、例へハ最惠國約款ニ關スル件、獨逸又ハ各日耳曼聯邦ヲシテ相互的條件又ハ之レニ依ラスシテ佛國及ヒ聯合諸國ノ生產品ニ對シ優遇ヲ爲サシムヘキ件、其他日耳曼聯邦ト締結スヘキ將來ノ通商協約ニ關スル件等ノ如キ即チ是ナリ、次テ右委員會ノ研究項目ヲ擴張シテ多方面ニ亘ルノ要アレトモ、畢竟實行シ易ク且ツ之レヲ活用センニハ只條約ニ明記シ又ハ吾法律若クハ吾通商協約中ニ成文ヲ以テ規定スルヲ以テ足レリトスル

カ如キ條項ナラサル可ラサルナリ

青年ノ子弟カ歐羅巴全土ヲ獨逸軍國主義ノ支配ヨリ救出セントシテ戰線ニ奮闘中、年齡ノ關係上後方ニ殘留セル共和國委員會員ハ吾商工、農業家ノ意向ニ動カサレテ、最モ簡易ニシテ且ツ最モ實行シ易キ方面ノ有益ナル事業ニ力ヲ用ヒントシツツアリ、蓋シ目下吾農工、商業家ヲ支配シツツアル精神ハ彼ノ深ク前後ヲ考慮セサル血氣ノ勇トモ稱スヘキ世ノ侵略主義ニ反對シタル穩健ナル思想ナラスンハアラサルナリ現今ノ貿易狀態ニ照ラシテ之レヲ批評スルトキハ佛國ハ未タ畏敬スルニ足ルノ國ナリト云フコト能ハサル憾アレトモ又確カニ大ナル運命ヲ有スル一大國タルコト論ヲ俟タス、此ノ事實ハ目下ノ實狀ヲ尙ホ一層正確ニ研究シテ之ヲ知ルコトヲ得ヘク佛國ノ爲メ多少満足ヲ得ルノ材料ト又將來ノ隆盛ヲ保證スルノ方法トヲ發見スルハ必スシモ困難ナラサルヘシ、佛國ノ過去ニ成就シタル事業カ其人口ノ數ニ照ラシテ如何ニ偉大ナルモノアリタリシニモセヨ、今日ノ三倍若クハ四倍以上ノ事業ヲ佛國ニ強ユルコトハ其ノ國力ノ及ハサル點ヲ知ラサルノ論ニシテ無理ナル註文タラスンハアラサルナリ

佛國ハ戰後ノ事業トシテ先ツ専ラ國內ノ平和ト社會政策トヲ念ト爲シ、外國市場ヲ

侵略スル前ニ先ツ吾市場ノ整理ト防衛トニ努メ、且ツ外國ニ於ケル吾商標ノ擁護ニ努力セサル可ラス、コレ啻ニ吾人ノ主張タルノミナラス巴里、各府縣及ヒ外國ニ於ケル吾商工業者ノ一齊ニ吾人ニ勸告スルトコロナリ、此賢明ナル勸告ニ從フトキハ有ユル僞造ヲ撲滅シ、總テ外國ノ代用品ヲ防禦シ以テ從來吾商品ヲ模倣シテ佛國製品ノ聲價ヲ失墜セシメタル詐欺的競争ヲ一掃シテ再ヒ吾對外貿易ヲ復活シテ輸出額ノ増進ヲ見ルニ至ルヘキナリ

又同勸告者ハ吾人ニ注意シテ佛國ハ豫ネテ諸外國人ニ向テ餘リニ寛大ニ其門戸ヲ開放セリト非難シ、現ニ獨逸商業派出員ノ如キハ從來吾人ノ彼等ニ對スル信用ヲ濫用シテ屢々不正ノ行爲ヲ爲シ來リタル旨ヲ指摘シ、向後ハ此ノ如キ商業的假面ノ下ニ組織的政治的且ツ軍事的ナル入寇ヲ再演セシメサルノ方法ヲ講セサル可ラスト爲セリ、是レ吾人カ將來佛國ノ利益擁護上吾人ノ欲セサル外國人ニ對シテハ嚴格ナル態度ヲ持シテ巡回商人ヲ監視スヘキ制度ヲ設定スルノ義務ヲ感スルニ至リタル所以ナリトス

吾人ハ平和克復後ニ於テ吾商工業ヲ充分ニ活用シ得ヘキ諸般ノ準備ニツイテ今日直チニ着手スルノ要アルモノト認ム、而シテ之レカ方法トシテハアルサス、ローレ

ヌニ於ケル過渡的經濟制度ヲ設定シ、佛本國ト其殖民地間及ヒ吾殖民地ト外國トノ關係ヲ改善シ、獨逸製造品ノ驅逐方法ヲ講究シ又獨逸商品ノ代用トナルヘキ生産品ヲ聯合國間ノ通商協約ニ依テ相互間ノ供給ヲ保證スルノ方法ヲ攻究スルノ要アリ以上列舉シタル吾人ノ希望項目ハ其要求ノ頗ル單純ナル丈ヶ之レカ實行ハ甚タ容易ナル可ク、吾人ハ之ニヨリテ商工業ノ大ナル繁盛ヲ佛國ニ保證シ、又聯合國間ノ經濟的協商ニ依テ獨逸ノ輸出貿易ヲ減退セシメ之レニ代リテ佛國商品ヲシテ全世界ニ販路ヲ擴張セシメ得ヘキコトヲ信シテ疑ハサルナリ

附錄第一

最近十箇年間ニ於ケル獨逸ヨリ佛國ニ對スル輸入表

(單位法)

一、一、一、一、一、一、一、一、一、一	九、九、九、九、九、九、九、九、九、九	○、○、○、○、○、○、○、○、○、○	三、年
一、一、一、一、○、○、○、○、○、○	四、五、六、七、八、九、一、二、三、一	〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	四、年
一、三、二、一、〇、九、八、七、六、五	年、年、年、年、年、年、年、年、年、年	年、年、年、年、年、年、年、年、年、年	五、年
千、九、百、十三、年、獨、逸、ヨ、リ、佛、國、ニ、對、ス、ル、輸、入、品、ノ、部、類、別			

精 原 食
計 製 糧
品 料 品

二

(單位法)

一一三、八四四、〇〇〇
三五二、二三九、〇〇〇
六〇二、七一七、〇〇〇
一〇六八、八〇〇、〇〇〇

最近十箇年間ニ於ケル佛國ヨリ獨逸ニ對スル輸出表

五一二、七〇〇、〇〇〇 (單位法)

五五五、二〇〇、〇〇〇

六二八、八〇〇、〇〇〇

六四〇、三〇〇、〇〇〇

六四九、七〇〇、〇〇〇

六一七、一〇〇、〇〇〇

七二五、八〇〇、〇〇〇

八〇四、〇〇〇、〇〇〇

一一一、一九一、一九一、
一九一、一二年、一年
一千九百十三年ニ於ケル佛國ヨリ獨逸ニ對スル輸出品ノ部類別

(單位法)

精 原 食
計 製 糧
品 料 品

一

七九四、五〇〇、〇〇〇
八二一、七〇〇、〇〇〇
八六六、八〇〇、〇〇〇
八〇四、〇〇〇、〇〇〇

七六、六四〇、〇〇〇
三四六、五四八、〇〇〇

四四三、五七八、〇〇〇
八六六、七六六、〇〇〇

附錄第二

最近十箇年間ニ於ケル 塊匈國ヨリ佛國ニ對スル輸入表

七四、六〇〇、〇〇〇〇 (單位法)

六八、三〇〇、〇〇〇〇

七二、三〇〇、〇〇〇〇

七六、七〇〇、〇〇〇〇

八一、七〇〇、〇〇〇〇

七〇、三〇〇、〇〇〇〇

七一、五〇〇、〇〇〇〇

八八、六〇〇、〇〇〇〇

八七、七〇〇、〇〇〇〇

一〇、六、四〇〇、〇〇〇〇

一〇、三、五〇〇、〇〇〇〇

千九百十三年 塊匈國ヨリ佛國ニ對スル輸入品ノ類別

精 原 食
糧 製 品
品 料 品
計

最近十箇年間ニ於ケル 佛國ヨリ 塊匈國ニ對スル輸出表

(單位法)

一二、〇八三、〇〇〇

五四、一四二、〇〇〇

三七、二三三、〇〇〇

一〇、三、四五八、〇〇〇

二四、九〇〇、〇〇〇〇 (單位法)

三七、二〇〇、〇〇〇〇

三〇、六〇〇、〇〇〇〇

三六、七〇〇、〇〇〇〇

四五、六〇〇、〇〇〇〇

四二、四〇〇、〇〇〇〇

四三、八〇〇、〇〇〇〇

四五、九〇〇、〇〇〇〇

一一、一一一、一一一
九九、九九九、九九九
一〇、〇〇〇、〇〇〇〇
〇、九八七、六五四、三
年、年、年、年、年、年

千九百十三年ニ於ケル佛國ヨリ換匈國ニ對スル輸出品ノ類別

(單位法)

六	四六、四〇、〇〇〇
三五、七四六〇〇〇	四八、三〇〇、〇〇〇
四三、八一、〇〇〇	四三、八〇〇、〇〇〇
六九一、〇〇〇	七、三七四〇〇〇

附錄第三

(本表ノ説明ハ第二章「佛國關稅率」中ニ在リ)

千九百十三年ニ於ケル佛國輸入品細別表

特ニ獨逸及換太利匈牙利兩國ヲ主要輸出國トセル佛國輸入品

(最下欄ニ於テハ獨逸ニ次テ主タル供給國名ヲ掲ク)

機械及機器	品目	佛國關稅番號
機械及機器	總計	三一、四〇〇、〇〇〇
機械及機器	徵稅額	七、二六、〇零
機械及機器	百分比	九・五
機械及機器	稅率	一
機械及機器	量	一
機械及機器	獨逸	八六、四五〇
機械及機器	主要輸出國	三、九六、〇〇〇
機械及機器	換匈國	二五、五七六
機械及機器	瑞西	一、六四〇、〇〇〇
機械及機器	其他ノ諸國	一、六四〇、〇〇〇
機械及機器	(斤量)	一
機械及機器	卡ント	一
機械及機器	九・三	一
機械及機器	五、九三	一
機械及機器	三、九三	一
機械及機器	一、九〇	一
機械及機器	一、八九	一
機械及機器	一、八〇	一
機械及機器	二・一	一
機械及機器	二・四	一
機械及機器	七・八三	一
機械及機器	三、九二	一
機械及機器	二、八二	一
機械及機器	一、九〇	一
機械及機器	一、八九	一
機械及機器	一、八八	一
機械及機器	三、四五	一
機械及機器	二、一四六	一
機械及機器	八、五九	一
機械及機器	瑞西	一、〇七

天然曹達又ハ 精製曹達	剝篤亞斯及剝篤亞斯炭酸鹽	石灰 マグネシヤ	鐵 マグン	錫 マクネ	銅 マクネ	純粹 ナ	鉻 ナ	酒 ナ	鹽 ナ	炭 ナ	溴 ナ	磷 ナ	鐵 ナ	鐵 ナ	鐵 ナ	鐵 ナ	鐵 ナ	鐵 ナ
一、三九、四八〇	二、九四九、四八〇	五、〇五	五、七九	一、三九、二〇〇														
二、六四八	二、六五	三〇、六九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四八・〇	四八・一	二一・八	一六・二	三七・九	四・四	五・〇	二〇・〇	七・七	二〇・五	八・八	五・七	七・一	一	一	一	一	一	一
五一	五二	七三、七七	三四七	三四八	四七〇	六六七	八六六	三一	二一	二七	二九	二九						
五〇三	五〇三	五〇六	四一五	八・六四	七・三	五・九三	五二五	二、三三	一五	二〇	二〇	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
白國	露國	英國	白國	英國	白國	土國	英國	伊國	瑞西	英國	白國	和蘭	瑞西	英國	白國	白國	白國	諸國
三	二、四七五	空七	四一七	四〇四	三五、二四七	一六九四	一六九四	一六九四	三五、二四七	一六九四	一六九四							

佛國番號	品目	價格總計法	徵稅額法	百分率	斤量	閩主要輸出國(斤量)	荷國(斤量)	其他諸國
三	鯨	一、五九〇〇〇〇	一、五九〇〇〇〇	一·一	カント一	二・九七	カント一	諸國
二	炭	五八四、〇〇〇、〇〇〇	五八四、〇〇〇、〇〇〇	一·一	カント一	三、六四、二〇〇	カント一	諸國
一	石塊炭及コークス	一、五九〇〇〇〇	一、五九〇〇〇〇	一·一	カント一	一、五九〇〇〇〇	カント一	諸國
五	化學製品	九六五、八〇〇、〇〇〇	九六五、八〇〇、〇〇〇	一·一	カント一	九五、一七一、一七一	カント一	諸國
四	穀類粒及粉(マルト)	一〇一、九四五、五五六	一〇一、九四五、五五六	一·一	カント一	一、三五五、五四三	カント一	諸國
三	燕麥(粉)	七、三七一、三三〇	七、三七一、三三〇	一·一	カント一	一、三五五、五四三	カント一	諸國
二	麥(粉)	三、六四、七一五	三、六四、七一五	一·一	カント一	一、三五九、五四二	カント一	諸國
一	燕麥(粉)	一、三九、一〇七	一、三九、一〇七	一·一	カント一	一、三九〇、八九七	カント一	諸國
十	麥(粒)	一、三五八、八〇〇	一、三五八、八〇〇	一·一	カント一	一、三五九、三〇七	カント一	諸國
九	麥(粉)	一、三五九、三〇六	一、三五九、三〇六	一·一	カント一	一、三五九、三〇七	カント一	諸國
八	燕麥(粉)	一、三五九、三〇七	一、三五九、三〇七	一·一	カント一	一、三五九、三〇七	カント一	諸國
七	燕麥(粉)	一、三五九、三〇七	一、三五九、三〇七	一·一	カント一	一、三五九、三〇七	カント一	諸國
六	燕麥(粉)	一、三五九、三〇七	一、三五九、三〇七	一·一	カント一	一、三五九、三〇七	カント一	諸國
五	燕麥(粉)	一、三五九、三〇七	一、三五九、三〇七	一·一	カント一	一、三五九、三〇七	カント一	諸國
四	燕麥(粉)	一、三五九、三〇七	一、三五九、三〇七	一·一	カント一	一、三五九、三〇七	カント一	諸國
三	燕麥(粉)	一、三五九、三〇七	一、三五九、三〇七	一·一	カント一	一、三五九、三〇七	カント一	諸國
二	燕麥(粉)	一、三五九、三〇七	一、三五九、三〇七	一·一	カント一	一、三五九、三〇七	カント一	諸國
一	燕麥(粉)	一、三五九、三〇七	一、三五九、三〇七	一·一	カント一	一、三五九、三〇七	カント一	諸國

326

327

終